
2018年度日本語教育学会 奨励賞

受賞者 田中 祐輔 氏

【授賞理由】

田中祐輔氏は、2009年3月に早稲田大学大学院を、日本語教育研究科修士課程を修了されました。田中氏は研究の軸足を中国の日本語教育史や教科書分析に置き、公刊された博士論文『現代中国の日本語教育史—大学専攻教育と教科書をめぐって—』（国書刊行会、2015年）で、2016年6月公益財団法人大平正芳記念財団から第32回大平正芳記念賞特別賞を受賞されています。

田中氏の業績に関して特筆すべきことは、論文の生産性が極めて高いことです。代表的な査読付きの雑誌を挙げるだけでも、単著「中国における日本語教育論議の現代史—学術誌『日語学習と研究』（1979～2012）の分析から—」（『日本語教育』156号、2013年）、単著「中国の大学専攻日本語教科書に見られる日本の小・中・高等学校国語教科書との近似性の実態—掲載作品の様式・年代・題材の計量分析から—」（『計量国語学』28巻8号、2013年）、単著「中国の大学専攻日本語教育における「国語教育」—教育委員会中国日本語教師派遣事業から見る国語科教論の教育実践と求められた役割—」（『国語科教育』74巻、2013年）などがあり、その他の雑誌を含め、たいへん多くの論文を発表されています。中国語による論文発表も積極的に行っておられ、まさに、日中をまたにかけて活躍する研究者です。

商業出版論文集に目を向けると、吉岡英幸・本田弘之編『日本語教材研究の視点—新しい教材研究論の確立をめざして—』（くろしお出版、2016年）、川上郁雄編『公共日本語教育学—社会をつくる日本語教育—』（くろしお出版、2017年）掲載の論考や、「現場に役立つ日本語教育研究」シリーズ（くろしお出版）の1巻、2巻、6巻の論文（順に「初級総合教科書からみた文法シラバス」2015年、「初級総合教科書から見た語彙シラバス」2016年、「語彙に着目した日本語教科書作成プロセスの歩み」2018年）など、論文集の編者各位から厚い信頼を得ていらっしゃいます。

論文・著作執筆以外の仕事も積極的に関わっておられます。学会活動では、本学会でのご活躍のみならず、多くの学会及び研究会に所属し、活動内容が非常に多岐にわたっていることがわかります。各会で大事な仕事を担当なさっているのですが、例えば、会計担当の日本語教育史研究会においては、若手の中心人物として会の運営を支えています。毎日の授業内容についても評価が高く、非常勤先の早稲田大学で2017年度秋学期には、早稲田大学ティーチングアワード総長賞を受賞されています。

このようなめざましい実績を評価するとともに、今後のさらなる活躍を期待し、田中氏に日本語教育学会奨励賞を贈ります。

以上
